

川崎市立 日本民家園

日本民家園だより 33号 平成7年10月20日 編集・発行 川崎市立日本民家園

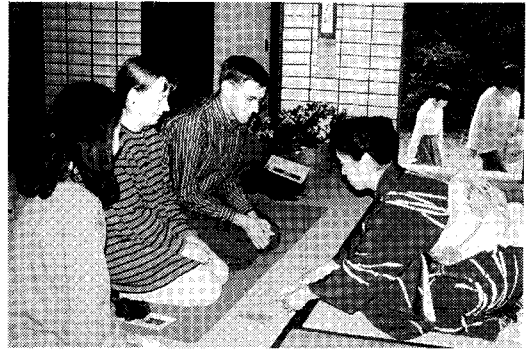
民家園まつり

民家園まつりは本年も11月3日（文化の日）の舞台公演を中心に開催されます。この日は稲城市の山本社中による江戸の里神楽「八雲神詠～八俣大蛇退治」と川崎沖繩芸能研究会による「沖繩民俗舞踊」が予定されています。この公演場所は旧船越の舞台で、この建物は三重県大王町、志摩半島の漁村にあった歌舞伎芝居などに使われていたものです。正面に花道、両袖に出語り、そして中央に回り舞台を備えている立派なもので安政4年（1857年）に建築された建物で、国指定重要有形民俗文化財になっています。

この舞台公演の前後、10月から11月にかけては、民家園講座「日本建築の歴史とその特質」、体験学習会「紙すき」・「はた織り」、民具製作技術保存会（民技会）による「竹細工」「わら細工」「はた織り」の実演と、同会員による作品展示会、神奈川紙すき研究会による「紙すき」、伝統技術技法を保存継承する会による「彫金・

木彫・創作七宝・市松人形・尺八製作・和裂創作・井戸さらい」等各団体の実演会、川崎文化財友の会の「お茶の会」、炉端の会協力による「古民家床上公開」など各種の行事が目白押しとなっています。なお、11月3日は年1回の無料開園日となっていますので、秋の1日民家園でお過ごしになってはいかがでしょうか。

（行事は土・日曜日に集中していますので会場案内をご覧になるか、または詳細については当園にお問い合わせください。）



ボランティア活動で にぎわう民家園

近年、博物館・美術館では活動の多角的展開や利用者サービスの向上をめざし、館園がボランティアグループを育成し活発に活動している事例が多い。

当園でも開園まもなく民具製作技術保存会（通称・民技会）が発足し、今日まで熱心な活動を続けていることは良く知られておりますが、最近では新たに「川崎文化財友の会」と「多摩文化財愛護ボランティア」の2つの婦人グループと、当園で公募、養成講座を経て発足した「炉端の会」の3つのグループが加わり、それぞれ和気あいあいの活動を行っております。

川崎文化財友の会は、すでに当園所蔵古文書の目録作業、大岡蔵書の分類カード化作業、岡家資料の整理などたくさんの活動実績をあげ、また多摩文化財愛護グループは、年間を通し旧北村家で行われている年中行事展の展示活動を担当していただいております。

ここではスタート一年を迎えた「炉端の会」の活動ぶりを紹介しましょう。

当会の発足は平成6年9月1日。この日から原則として毎日、担当会員が来園し、当番民家の清掃、いろり・かまどの火焚き、床上の公開、来園者への解説、園内の巡回などを行ってきました。会員は

現在60名。その活動ぶりは8月12日放送のTV「かわさきNOW」でも紹介されました。

毎月第3金曜日は全会員のための学習会と連絡調整などの例会を開催し、年2回程度、博物館や文化財建造物をまわる研修も実施しており、これまで川崎市市民ミュージアムで開催された「川崎の文化財展」や、市内宮前区の影向寺、山梨県勝沼町の大善寺で研修いたしました。

会員は一年がたって園内所在古民家も一巡し、お互いの気心も知れて交流も深まり、本年9月からは小グループや団体のガイドも引受け、また小学三年生の体験学習の協力など、活動は多岐にわたってきました。

このような活動によって生き生きと表情をもった古民家に再会できた、と入園者にも評価されており、園と入園者との間の潤滑油としての役割が今後ますます期待されるところです。



外国人来園者を案内する会員

旧岡家所蔵資料展を開催

平成6年11月、市内高津区久本の旧家・岡信孝家から同家所蔵の医療関係資料、医学和本、古文書、民俗資料などの寄贈をうけました。

その後、資料の整理を進めてきましたが、このほど一応の作業が終了しました。これを機会に資料の一部を市民の方々にご覧いただくため、大山街道ふるさと館と共催で、同館常設展示室を会場に「旧岡家所蔵資料展」を開催いたします。

展示資料は寄贈分のほかに、岡家のご好意により、近世後期の「久本村絵図」や、久本村を知りし旗本長坂氏から岡家へ与えられた居屋敷年貢免除状など興味深い古文書などがあります。

会場 大山街道ふるさと館（高津区溝口）

会期 10月10日から平成8年3月末日まで



『日本民家園大岡文庫蔵書目録』 を刊行

故大岡実博士には、昭和42年の日本民家園の開設、およびその後の古民家移築計画や園の活動について、常にご指導をいただてきましたが、昭和62年のご逝去後、遺族のご好意により先生の蔵書、長年にわたる古建築の調査研究の過程で残されたフィールドノート、実測図・拓本・写真・自筆の原稿や会議諸記録や書簡類などがまとめて当園へ寄贈されました。当園では

さっそく寄贈資料の整理目録化を進めておりますが、今回、川崎文化財友の会の協力により蔵書の分類作業が終了し、目録として刊行いたしました。

古建築の解体修理報告書や、洋の東西にわたる古建築関係の文献を中心とする蔵書群でA4判・442頁という大部な目録となりました。

市内図書館に備えましたので、閲覧下さい。



焼失した和歌山・松生院本堂（大岡文庫 写真資料）

日本民家園まつり

会場案内

催事時間 10:00~15:00

古民家公開—協力 炉端の会

床上公開

民家園体験学習会(旧山田家)

紙すき

11月5日~19日(日曜)

(旧作田家)

ちびっこから細工教室

10月28日、11月25日

民家園年中行事展示(旧北村家)

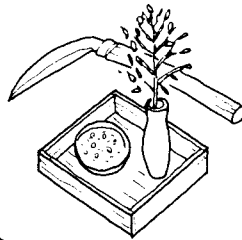
収穫祝い展示

10月~11月

民家園舞台公演

民俗芸能公演

11月3日(雨天 11月5日)



芸能公演日
舞台入口

西口駐車場

②⑩旧船越の舞台

●伝統工芸館

専修大学

川崎国際カントリークラブ

- ⑩ 行事民家番号
- 行事民家
- 民家園主催行事
- ▨ 市民参加行事
- 洗 洗面所
- 他施設等

*各行事内容は、都合により変更となる場合があります。

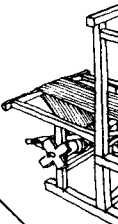
民家園

「日

民家園体験学習

はた織り

10



⑮旧北

民

講座(旧原家)

木建築の歴史とその特質

10月7日~11月4日(土曜)

会(旧原家)

月15日~29日(日曜)



小田急線向ヶ丘遊園駅

●東口駐車場

民家園入口

旧原家

本館受付
洗

日本民俗建築学会(本館)

民家展

10月~11月

民具製作技術保存会(旧原家)

はた織り

伝統技術技法を保存継承する会(旧佐々木家)

彫金・木彫・創作七宝・尺八製作
市松人形・和裂創作・鉤けずり・井戸さらい

11月1日~5日

川崎文化財友の会(旧佐々木家)

お茶の会

11月11日

神奈川紙すき研究会(旧山田家)

紙すき

10月14・28日、11月11・25日

●レストハウス

●プラネタリウム

●青少年科学館

民具製作技術保存会(旧作田家)

わら細工

民具製作技術保存会(旧太田家)

民技会会員製作展示会

10月~11月

民具製作技術保存会(旧北村家)

竹細工

●噴水

家園出口



建物の見どころとしくみ

第1回 船越の舞台 その1

「神奈川の村」最奥は旧岩澤家住宅ですが、家の正面左手にはさらに階段が続いています。この急な階段を登りつめると、大きな瓦葺建物の裏側に出ます。これが船越の舞台で、「芸能の森」と呼ぶ特別コーナーとなっています。

正面にまわってみましょう。裏側では切妻造だった屋根のかたちが、正面は入母屋造になっており、鬼瓦も大きく立派です。そして長大な梁がつくりだす間口の広さは、圧倒的なボリューム感を与えてくれます。農村や漁村につくられた歌舞伎舞台としては最大級のものと考えて差し支えありません。客席は野天で、緩い登り傾斜をもって建物前面に展開しています。

このように迫力ある建物ですが、残念ながら民家園まつり舞台公演時（毎年11月3日）以外は本来の姿に接する機会がありません。そこで

「建物の見どころとしくみ」シリーズでは、最初に船越の舞台をとりあげ、普段目にするののない内部の様子や、舞台としてはたらきを紹介してみたいと思います。今回は建物の構造と各部の名前を知ってもらうことにしました。次回からは回り舞台、花座・太夫座、スッポンなどについて説明していきたいと思います。

〔旧所在地〕三重県志摩郡大王町船越

〔建築年代〕安政四年（1857）

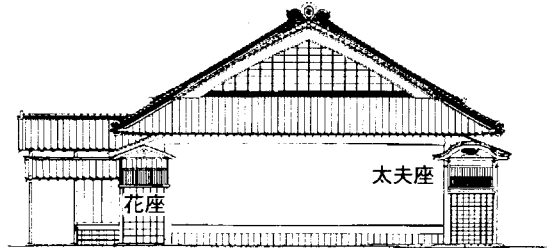


図1 正面図

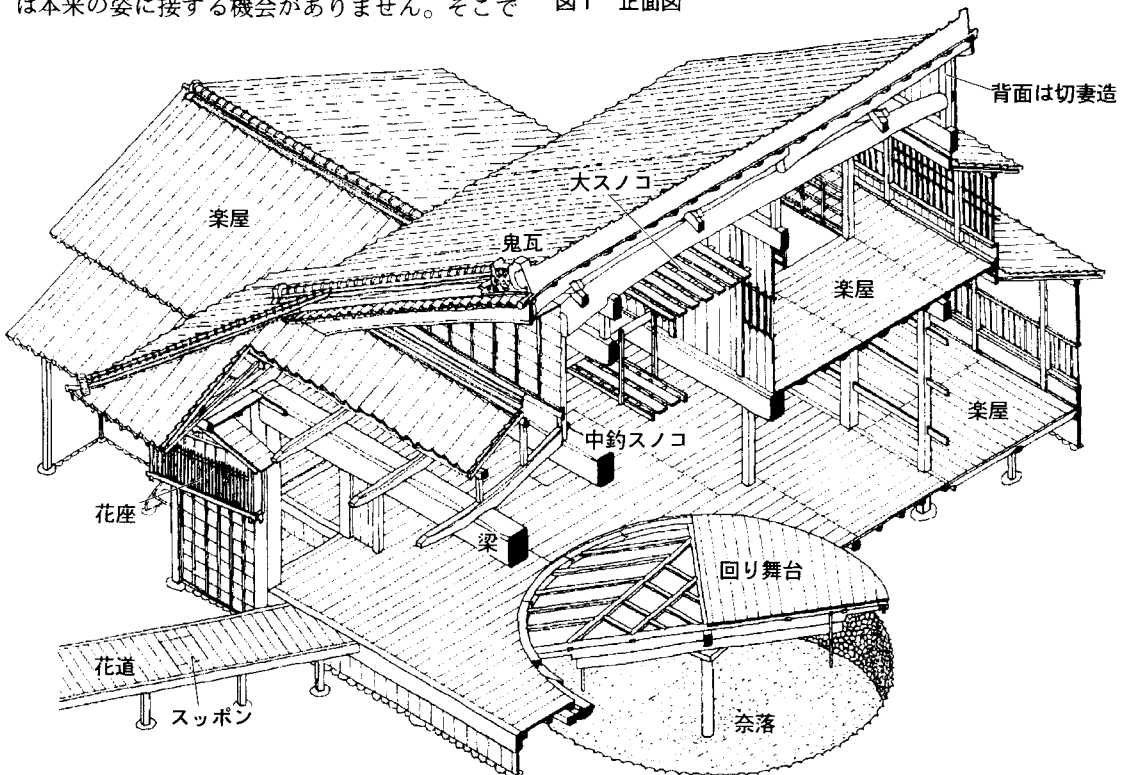


図2 断面アイソメ（図1の正面図を縦に割って上方から眺めた様子を図面化したものです）

学芸員実習

本年度も博物館学芸員の実習が5月から12月まで11回に分け22大学82名の実習生を迎え実施されています。実習生の学部も、文学部・法学部・経済学部・仏教学部・教育学部・人間社会学部・人文学部・社会科学部・農獣医学部・家政学部・造形学部・美術学部・工学部と多岐にわたっていますが、民家や生活に関心を持つ学生です。真剣に実習に取り組んでいます。

1回の実習は10日間で、内容としては博物館運営、展示、研究、整理、保管といった学芸員の仕事を講義と、各民家内にある民具資料の整理やチェック、写真撮影、清掃、体験学習や炉端の会への参加など多くの実体験をもらい、民家園（博物館）を内側から見て自分なりに学芸員の仕事を学び取ってもらうことに主眼をおいています。

『10日間という短い時間でしたが、博物館実習生として日本民家園で学ばせていただき本当にたくさんの事を学べたと思います。学芸員になるための資格取得を目的とした実習の中で普段は目にする事のできない博物館の裏側を知ることができました。学芸員が置かれている立場、また川崎市立という行政の運営体制の事情など、学芸員という立場から博物館というものを見た時様々な問題点が見えてきました。（中略）建築的に勝れた建物でも博物館として使いやすいのか、展示がよくわかるものかは別だという事です。そういった学芸員と建築家との考えの相違

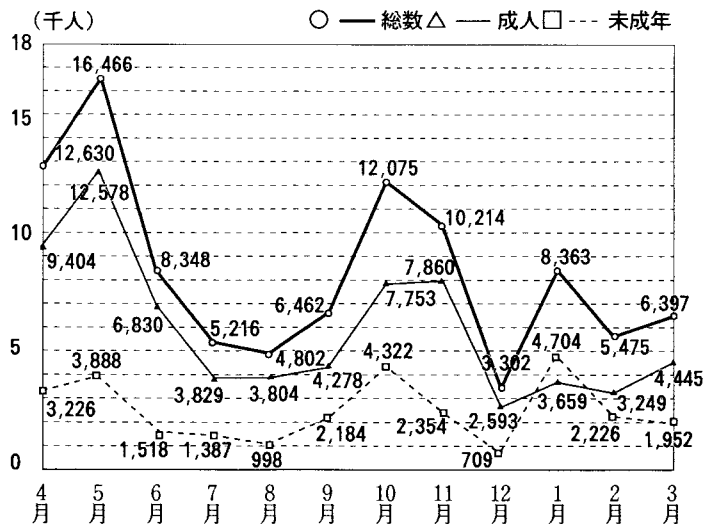
をなくすために、建築家でありながら学芸員でもあるという人材を求めて私達が育成されたのであろうと思います。将来、私が学芸員となり、また一級建築士となって博物館設計に携わる事ができたとしたら、学芸員にも納得がいく、そして建築的にも評価されるような博物館をつくる事ができるだろうと思います。……』

（東海大学工学部建築学科M・N）



平成6年度入園者数

総数 99,750 成人 70,282 未成人・学生 29,468



秋のお茶席

恒例となった川崎文化財友の会の協力による春秋二期のお茶席。今秋は日韓民家研究シンポジウムに合わせ、11月11日(土)に実施いたします。

紅葉の園内、古建築を鑑賞しながらお茶をお楽しみ下さい。

さい。

- 日時 11月11日(土)午前10時から
- 会場 ⑥佐々木家住宅
- 茶代 一服和菓子とも¥300

民家園の事業

民家園では民家・民具の展示、講演会、竹細工・わら細工・はた織りなどの体験学習等種々の活動を行っていますが、この他に普段皆様には知られていない調査、整理などの活動があります。今回はこのような表面に表われない事業についてご紹介しましょう。

○調査研究

調査研究の分野では、川崎の民家調査を継続して行っています。『民家と生活』をテーマとし、昨年度と今年度は川崎市の茅葺き民家にスポットをあて、実態数の把握、いろり・かまど・流し等の変遷、生活のリズムに関する聞き取り調査等を行っています。

年々減少する茅葺き民家とそこでの生活など、現時点で記録しておかねばならないことが多くあります。記録保存のみならず、その成果は民家園の展示の中にも生かされると思います。

現在、民家園には常設展示室が本館の1階にありますが、企画展示室はまだ整備されていません。民家や民具などの歴史、調査、研究による成果、季節に合わせたテーマなどによる展示等、より民家園への関心をもってもらうためにも企画展示室は必要とされます。当面は民家の2階を整備してそれにあてるという案も出ています。そのためには企画展示に向けての構想をねる必要があります。今回は「棟札(むなふだ)」という民家の新築や増

築の際に祈願文や施工者、紀年等を書いて棟木に打ちつけた札を資料とし、民家の建築や歴史に結びつけた展示を考えていますので、それらの資料調査や展示方法についての検討、調査を行っています。

この他、年中行事に関する調査活動も行っています。この調査はここ数年継続して行っていますが、民家園に移築された民家の現地へ行き年中行事の聞き取りや写真撮影等を行い記録を取っています。それらの成果は、旧北村家での年中行事展示や旧山田家の雪囲いや冬仕度の展示として生かされています。

○整理作業

整理作業では、建築史家として高名であった故大岡実博士の所蔵資料約10万点が民家園へ寄贈されたためその資料整理を行っています。資料は、海外を含む古建築の調査ノートや図面、写真、文献等近代日本建築史上の基本資料として非常に貴重なものといえます。一般公開に向け目録やカード化を急いでいます。

○民具整理

日本民家園には民具資料が約2万点収蔵されていますが、それらのうち資料カードが完成されていないものもあります。そういった資料のチェックや痛んだ資料の補修も継続して行っています。

秋の民家園講座「日本建築の歴史とその特質」

首都圏には美術館・博物館は数多いが、建築を主とする施設は少ない。そこで当園の講座では毎回古民家ばかりではなく、日本文化の重要な一ジャンルを構成する古建築の全般について、さまざまな角度でとりあげています。

本年度、秋の講座は下記のプログラムで盛況裏に開催中です。

プログラム

第1回(10月7日)	「式年造替について」 講師：東京大学名誉教授	太田博太郎氏
第2回(10月14日)	「建築のディテール2 木鼻」 講師：日本民家園技術職員	大野 敏氏
第3回(10月21日)	「民家の構造と耐震性」 講師：建設省建築研究所	河合 直人氏
第4回(10月28日)	「叡山と元三大師」 講師：日本民家園学芸員	三輪 修三氏
第5回(11月4日)	「法隆寺金堂の建築様式」 講師：横浜国立大学教授	関口 欣也氏